

## 少子化対策は子育ての経済的負担ゼロ

岸田自公政権は「少子化対策」のかけ声だけはあがるが、「少子化」の原因を考えたのか？ 大学は出たけれど、奨学金と云う借金。現在、その総額は九兆五千億円。七割が利子付き。平均的には、就職後月一〜二万の返済が十五年続く。これでは夢の新生活も考えられない。保育園、学校も負担が大変。労基法では八時間労働だが、かけ声だけ。連日の残業が当たり前。これでは、保育園のお迎えもままならない。これらを根本から改善しなければ少子化対策にならない。

**出生率を回復した国も**  
フランスやスウェーデン等では出生率を回復しているが、どの国も子供が生まれても経済的負担が生じないようになっている。保育園や学校は無料。国によっては学用品も支給。そして時間外労働を厳しく規制。

大学の学費無料の国も。「無料だと遊んではかりでは？」と思うのは早とちり。試験は厳しく簡単には卒業できない。日本と違う。次世代を担う子供は社会全体の宝。国の責任で賄えば良い。

**財源は**  
利子配当も総合課税とする事で所得一億超で税負担率が下がる制度を変え、超大企業の優遇税制を変えれば良い。超高額所得者や超大企業が儲けられるのは沢山の若者が働いているから。それを支える為の負担は当然では。あなたはどうか思われますか？

## 大葉赤榕あこうの落葉と芽吹き

沖縄県石垣市新川

二〇二三年四月



真乙婆御嶽まいつばうたきおんの大葉赤榕あこうについては日曜ジジ通信四四三号で触れた。とても大きく枝を広げる。

この真乙婆御嶽は石垣中学の校門の前。生徒達が毎朝掃いている。毎朝「お早うございます」と生徒が声をかけてくれる。

四月二〇日過ぎ、近くを通ると妙に明るい。見上げると葉が半分以上無くなっていった。足下には大きな葉が沢山。葉の落ちた細い枝からは次々と若葉が芽吹いている。木全体で一斉に落葉するのではない。古い濃い緑の葉のままの枝もある。赤榕は常緑樹だが、年に一回以上、一斉に葉を入れ替えるようだ。それが今。

「赤榕」は紀伊半島や四国、九州にもあるが、大葉赤榕は石垣島、西表島など八重山にある。

